

開会挨拶

日本の直面する課題解決



JXホールディングス相談役
一橋大学顧問
高萩 光紀氏

今回、とりまどられた「科学技術イノベーション総合戦略」は、我が国が直面している政策課題を5つに分類し、スマート化、システム化、グローバル化、システム化、グローバル化という3つの視点からイノベーションを引き起こす問題

2014年度 第1回
一橋大学政策フォーラム

イノベーションは我が国の未来を
どう切り拓くのか
～イノベーション・システム改革の行方～

イノベーションは、将来にわたって我が国がグローバル競争を生き残り、持続的経済成長を実現するために不可欠な原動力だ。昨年度に開催した政策フォーラムのテーマ「経済成長と科学技術イノベーション」に続き、今回7月2日に開催した2014年度第1回一橋大学政策フォーラムにおいても青木玲子・世代間問題研究機構教授総合司会で、この6月に政府が策定した「科学技術イノベーション総合戦略2014」を基に、安倍晋三内閣が掲げる「世界で最もイノベーションに適した国」の条件について議論がかわされた。

基調講演1



総合科学技術・イノベーション会議議員
原山 優子氏

「戦略的イノベーション創造プログラム」と「革新的研究開発支援プログラム」だ。こうした事例を積み重ね、実証していくことで省府の枠を超えた政策を誘導し、持続的発展性のあるイノベーションシステムを実現していくつもりだ。

府省の枠を超えた政策誘導
対話通じ司令塔機能強化

欧米諸国をはじめとする様々な国において、イノベーション政策は経済政策の大きな推進力となっており、さらに、雇用問題や不平等の是正といった社会的課題の解決

基調講演2



東京大学大学院
工学研究科教授
元橋 一之氏

「サイエンス経済」の視点で
新しいビジネスモデル創出

「サイエンス経済」の視点で新しいビジネスモデル創出。サイエンスをベースとしたヒット商品「ヒートテック」は、その一例だ。東レの繊維技術（サイエンス）とエンクロのマーケティングを組み合わせ、政策を考案する必要がある。

世界で最もイノベーションに適した国をいかに

パネルディスカッション



- 上野 有子氏 (司会)
一橋大学経済研究所 世代間問題研究機構准教授
元橋 一之氏
原山 優子氏
岸 輝雄氏
岡室 博之氏



森下氏



上野氏 (司会)

規制改革で環境整備
工学系の再発展が不可欠
柔軟な雇用制度必要
挑戦する人材育てる
科学的な政策評価を

開会挨拶

文系の学問との交流期待



一橋大学長 山内 進氏

携において、CSTIに期待する点を伺いたい。森下 施策の一元化が重要なことははっきりしている。司令塔としての機能に期待している。規制改革の面でも連携できればと考えている。元橋 「戦略的イノベーション創造プログラム(SIPP)」と「革新的研究開発支援プログラム(IMPACT)」は非常に魅力的なプログラムだ。この政策実験の経緯や結果をきちんと検証して、次の政策に使えるようなデータを提供していただきたい。上野 最後に、経済政策と科学技術イノベーション政策の連携。SIPPの二つの柱として



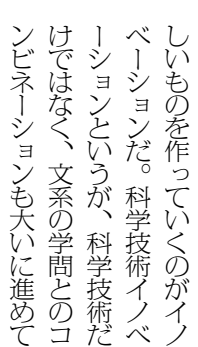
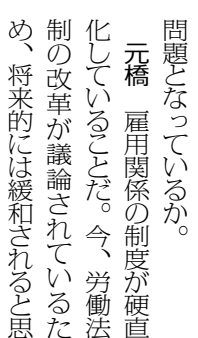
内閣府特命担当大臣
(科学技術政策)
山本 一太氏

来賓挨拶

経済政策との融合を重視

知の大競争時代を迎え、我が国の科学技術イノベーションの地位はじりじりと後退している。安倍内閣はその危機感を背景に経済再生を最優先課題に掲げ、研究機関が個別に研究開発に取り組む、所管官庁が縦割りで施策を進めてきた。イノベーションが絶え間なくわき出す環境にするには、人材面などでオールジャパンの視点から改革していく必要がある。

上野 イノベーションシステム向上のボトルネックは何だと考えるか。森下 規制の問題が大きい。イノベーションを促進するためには、規制改革をして、製品化までの期間を短縮すること、グリーン化できる環境を整えることが必要だ。また、多額の資金を要する橋渡し以降の段階で資金を有効に投入する仕組みも欠かせない。



近代科学や学問の特徴の一つは分離主義といわれる。専門に深く入り込んで特化する。他の分野から離れていく。しかし私たちは今、それでは対応できない局面を迎えている。日本がイノベーションで未来を切り開くために、ぜひ社会科学や人文科学の人たちも一緒にやってもらう、と言ってもらえれば共に取り組んでいきたい。

企画・制作 日本経済新聞社 クロスメディア営業局

主催：一橋大学 後援：内閣府

お問い合わせ先：一橋大学政策フォーラム http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/project/forum.html